

青少年育成センターだより



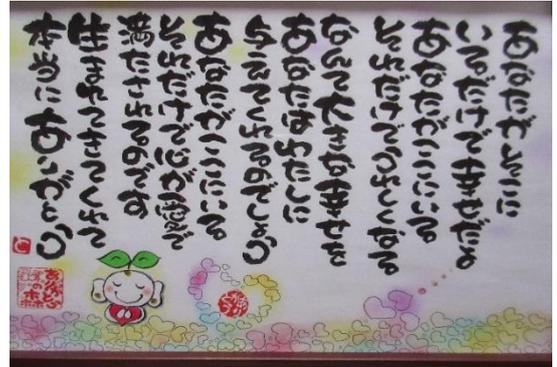
第6号 平成28年11月

先月行われた「愛情防府 フリーマーケット」は天気が良く、多くの人々が来場され、とても活気のある祭りでした。これを読まれている方々も来場され、楽しまれたことでしょう。地元の祭りが盛大に行われるということはいずれも嬉しいものですね。

生まれてきてくれてありがとう

私は当日、駅通りの警察のブースで「薬物乱用防止」のチラシ配りをしました。多くの人に快く受け取ってもらえて、配布する者として大変うれしく思いました。少しは薬物乱用防止に関して理解していただくのに役立てたのではと思っています。

チラシの配布が終わり、歩いていたところ、右のような色紙が目に入りました。ほっとする文字と絵が描かれてあり、特にその言葉の温かさが気に入り、つい購入してしまいました。(右写真)



【作品＝ありがとうの森】

どうですか、皆さんは、この言葉を読まれてどんな気持ちになられるでしょうか。温かい言葉ですね。子育てで疲れておられる方にとって、今一度、子育ての喜びというものを感じさせてくれる言葉だと思います。

子どもを産み、育てることはとても大変なことです。子どもがいるだけで救われることも多いものです。笑顔や寝顔を見るだけで幸せをくれる子どもの存在は本当に尊いものだと思います。

子どもたちが生きていくうえで一番大切な感情は何でしょうか。私は**自己肯定感**だと思います。自己肯定感とは、子どもが、「自分はここにいるべき人間である」「周りの人は自分の存在を喜んでくれている」「自分の存在が家族に幸せをもたらしている」などを感じる気持ちです。自己肯定感のある子どもは非行に走ったり、自死を選んだりしません。自分を傷つけ、人をも傷つけたりすることはありません。

自己肯定感を子どもの心に芽生えさせるにはどのようにしたらよいのでしょうか。それは親や大人が子どもをしっかり愛してやることです。子どもは親や大人からの愛を感じ、自分の心に自己肯定感を芽生えさせていきます。

子どもが親からの愛情を感じる時というのは、乳児期に「かわいい子だね。元気に育ててね」と声をかけている時です。乳児は言葉をしゃべれませんが親からの愛情を間違いなく感じています。幼児期には、子どもの思いをしっかり聞いてやり、答えてやる時です。「お母さん、お父さんは、こう思うよ」と答えてやることで親が自分に向き合ってくれている、自分は大切にされていると感じるのです。ぜひ実践してほしいと思います。

もう一つ実践してほしいことがあります。色紙にも書いてある言葉、「生まれてきてくれて本当にありがとう」と子どもに言ってやってください。きっとこの言葉を聞くことにより、子どもの心に自己肯定感の種が蒔かれることでしょう。親子の絆がますます深くなるのです。

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター（23-3013）